令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立常盤小学校 ）　　学校番号　００２　　【様式】

目指す学校像	「喜んで登校（出勤）、満足して下校（退勤）」 心身ともに健康で　思いやりの心をもち　主体的に学ぶ常盤っ子を育成する学校

重点目標	１　学ぶ楽しさを実感する「本気で学ぶ」授業の創造 ２　清潔で、静謐な教育環境の創出 ３　学校、家庭、地域の連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現 ４　ものごとの本質を捉えた教育活動を展開し、学級経営の充実を図る

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○各単元の振り返りや小論文を積極的に取り入れてきたことで、学習内容を深く考えられるようになり、思考の深化につながっている。 （課題） ○基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の向上を図ることはできているが、個人差が大きいことから、ICT 活用状況のデータ等を効果的に活用し、個別の支援を講じていく必要がある。 ○「学んできたことを生活に活かすことができる」ことを実感できるよう教員の働きかけを具現化する必要がある。	・「本気で学ぶ」児童の育成	１　「自分発→みんな経由→自分行き」の学びを構築するため、「主体的で深い学び」「対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実や学習内容と方法をセットにした授業改善を行う。 ２　基礎的な学習に配慮を要する児童を対象にした支援教室を実施する。	１　学校研究アンケート（児童）の「自分の学び方」「学び合いについて」の評価項目における肯定的な回答の上昇。 ２　学校評価アンケート「学校は、考える力や表現力を高める授業を実施に努めているか」の肯定的な回答９０％以上。				
		・「学びを追究」する児童の育成	１　小論文による学びの振り返りを充実に取り組む。 ２　全国学力・学習状況調査の振り返りを行い、児童が自ら学習状況を把握する。その際、学校研究と連携する。	１　学校研究アンケート（児童）の「授業での経験」の評価項目における肯定的な回答の上昇。 ２　学習の振り返りの記述の中に、自分の成長の気付きや今後さらに追究したいこと等への記述が増えたか。				
2	（現状） ○全国学力・学習調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。 ○コロナ禍による制約のある生活を続けてきたことで、ストレスを抱えた児童がいる。 （課題） ○児童一人ひとりの状況を把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制を継続していく必要がある。 ○落ち着いた学習や生活ができるのは、落ち着いた環境にしかできないという意識をもち、教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童自身が生活環境に目を配り、安全意識を高める力をはぐくむことが必要である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に係る組織的な対応の充実	１　生徒指導・教育相談委員会や情報交換会を定期的に開催し、情報端末を活用して、指導の蓄積や分析を行う。 ２　生徒指導等の問題に「迅速・誠実・アフターケア」を踏まえて対応する。 ３　生徒指導に関する教職員研修会を実施する。	１　生徒指導・教育相談委員会や情報交換会を定期的に開催したか。その際、情報端末の活用をしたか。 ２　学校評価アンケートにおいて、生徒指導・教育相談等に係る設問で肯定的な回答９０％以上。 ３　講師を招いた校内研修会を実施したか。				
		・安全に生活しようとする児童の育成	１　整備された空間を維持するために、「黙々清掃」を実施する。また、自己内対話の時間と捉え取り組む。 ２　教育環境の整備と教材の充実のために、全教職員による備品整備を実施する。	１　日常の清掃状況を把握し、「黙々清掃」を各学期１回以上実施したか。 ２　学校評価アンケートにおいて、「学校は、環境を整え、安全で美しい学校づくりに取り組んでいるか」の肯定的な回答９５％以上。				
3	（現状） ○常盤中学校、常盤北小学校と３校合同の学校運営協議会を開催し、常盤地区で目指す子ども像の共有を図った。 ○コロナ禍による制限の中で、学校行事等の公開方法を工夫し、保護者への公開を増やした。 （課題） ○学校運営協議会で熟議した内容を具体的な方策へ昇華していく必要がある。 ○特別授業の実施が主に 4 年生以上が多く、低学年は音楽に関する特別授業が多かったため、低学年の特別授業の幅を広げることが課題である。	・常盤地区の子どもたちの健全育成	１　３校合同での情報・行動連携のための学校運営協議会を開催し、９年間を見通して熟議を行う。 ２　コミュニティ・スクールを核として、常盤地区の子どもたちのコミュニケーション力向上に係る活動の展開。	１　３校が連携した学校運営協議会を２回開催したか。委員から出た意見を熟議の議題に取り入れたか。 ２　学校評価アンケートにおいて、保護者・地域との連携に係る設問での肯定的な回答９０％以上。				
		・目指す児童像を家庭や地域で共有するための教育活動の公開	１　学校行事等を効果的に開催する方法を検討し、運営する。 ２　専門家やアスリートなどの外部講師を招聘した授業を計画し、地域を活用した魅力ある特別授業やキャリア教育を行う。	１　児童の発達段階や学年に応じた適切な特別授業、キャリア教育を実践できたか。 ２　学校評価アンケートにおいて、「学校は、保護者や地域の方々と協力し合って教育活動を進めているか。」の肯定的な回答９０％以上。				
4	（現状） ○コロナ禍で得たことを活かして、教育活動の検討・見直しを進めている。 ○エバンジェリストを中心とした研修により、授業中における ICT ツールを活用が図られている。 （課題） ○全教職員が公開授業を１回以上実施しているが、授業参観後の教員間の情報共有の方法が課題である。 ○ICT を活用したからこその学びの在り方や授業改善の研究が必要である。	・当事者としての自覚をもった教育活動の展開	１　概念的思考によりものごとの本質を見極めた教育実践を行う。 ２　研究主任を中核とし、教職員のボトムアップで創り上げる学校研究を展開し、研究発表会を開催する。 ３　一人１研究、一人１回研究授業・公開授業を実施する。研究や公開授業等において、役割や期待する点を具体的に指摘し、教職員の自己有用感を醸成する。 ４　ICT ツールを効果的に活用し、学習形態の在り方を再検討する。	１　児童アンケートにおいて、学級経営の充実に係る設問における否定的な回答の減少。 ２　学校評価アンケートにおいて、学校への満足度に係る設問での肯定的な回答の向上。 ３　教職員の主体的な研究として、一人１研究、一人１回研究授業・公開授業に取り組んだか。 ４　ICT ツールを活用した授業実践になっているか。				